

現在、長久手市では、地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定を進めており、市民のみなさんに計画への理解を深めていただくため、講演会等を実施しています。

今年9月には、住民福祉総合研究所 木原孝久代表を講師にお招きし、「第7回地域福祉推進のための講演会」を開催。「地域のつながりを育む住民流福祉のすすめ～ご近所パワーで助け合い起こし～」と題し、講演と体験ワークショップを実施していただきました。そこで木原さんに教えていただいたことは、目からうろこでした。木原さんのお話の一端をご紹介します。

(以下、住民福祉総合研究所 (代表 木原孝久氏) 「なぜ日本人は、助け合いが苦手なのか？」より抜粋)

あなたの「おつき合い」の流儀は？

まず自分のおつき合いの流儀を確認するテストをやってみてください。

以下の項目で「私もそう思う」というものに○印を、「そうは思わない」に×印をつけます。ここでは○か×かのどちらかに決めてください。さて、あなたは○がいくつ、つきましたか。

- | | | |
|---|-------|--------------------------|
| ①自分や自分の家族のことは隠しておきたい | | <input type="checkbox"/> |
| ②自分のことがご近所で噂されるのはイヤ | | <input type="checkbox"/> |
| ③人に助けを求めるのは苦手だ | | <input type="checkbox"/> |
| ④人に迷惑をかけることだけは絶対にしたくない | | <input type="checkbox"/> |
| ⑤人のことはなるべく詮索 <small>せんさく</small> しないようにしている | | <input type="checkbox"/> |
| ⑥誰かが認知症だと気づいても、誰にも言わないようにしている | | <input type="checkbox"/> |
| ⑦困っている人にはお節介と言われないう程度に関わる | | <input type="checkbox"/> |
| ⑧引きこもるのにも事情があるから、無理にこじあけるべきでない | | <input type="checkbox"/> |
| ⑨お互いのプライバシーは十分に尊重し合うべきだと思う | | <input type="checkbox"/> |
| ⑩隣人とはあまり深入りせず、ほどほどのおつき合いを心がけている | | <input type="checkbox"/> |

多くの方は10個のうち7つから9つほどに○が付くようです。それもそのはず、これらは日本人のおつき合いの常識なのですから。しかしこれでは助け合いはできません。○印が多い人は、「助け合いはしたくない」と言っているのと同じなのです。日本人のおつき合いは、助け合いをしない前提で成り立っているのです。

あなたが助けられる立場になった時(①~④)

10項目を「助け合い」の観点から3つに分けて考えてみます。まず「助けられる側」から見ると、以下の4項目が該当します。これに○がつけば、どういうことになるのか、→印で示してあります。要するに「私のことは放っておいて」と言っているのです。周りも、助けの手を出せない。

- ①自分や自分の家族のことは隠しておきたい
→人の困り事が周りに気づかれない。
- ②自分のことがご近所で噂されるのはイヤ
→困り事の情報に周りに伝わらない。
- ③人に助けを求めるのは苦手だ
→「頼まれたら助ける」のが日本人。これでは手が出せない。
- ④人に迷惑をかけることだけは絶対にしたくない
→迷惑をかけたくないとさえ「助けて！」とは言えなくなる。

あなたが助ける立場になった時(⑤~⑧)

今度は「助ける側」から見てみましょう。関連しているのは、以下の4項目です。

- ⑤人のことはなるべく詮索しないようにしている
→詮索するほどの積極性がないと、人々の困り事は見えない。
- ⑥誰かが認知症と気付いても、だれにも言わないようにしている
→それでは困り事の情報に周りに伝わらない。
- ⑦困っている人には、お節介と言われぬ程度に関わる
→そんなに消極的な姿勢では、人は助けられない。
- ⑧引きこもるのにも事情があるから無理にこじ開けるべきではない
→だから、孤立死が生まれるのだ。

あなたのご近所づき合いの流儀は？(⑨~⑩)

最後は、私たちのご近所づき合いのあり方です。

- ⑨お互いのプライバシーは十分に尊重し合うべきだと思う
→「あなたのことは放っておきます（助けない）」ということ
- ⑩隣人とはあまり深入りせず、ほどほどのおつき合いを心がけている
→困り事は言い合わない、つまり助け合いをしないご近所関係✕